

都内全域をカバーする医療連携システム 東京総合医療ネットワーク

東京都医師会理事 目々澤 肇

2022.09.16 TMA 近未来医療会議シンポジウム

東京総合医療ネットワーク



公益社団法人 東京都医師会

東京総合医療ネットワークはすでに都内15病院で稼働

カルテをつなぐ
人をつなぐ

つながれば、医療はもっと便利に。

ひろがれば、安心はもっと身近に。

もう始まっています、

東京の未来を支える医療ネットワーク。

「東京総合医療ネットワーク」の取組に期待します

都民の誰もが、住み慣れた地域で安心して質の高い医療サービスを受けられるようにするためには、様々な特色や役割をもった医療機関同士が医療情報を共有できる環境を整えることが大変重要です。

医療分野におけるデジタル化の波が驚くべきスピードで広がる今日、東京都医師会では、多くの医療機関が存在する大都市・東京において、都全域を対象とした病院、診療所における診療情報ネットワークの構築に取り組まれています。

この取組が一層推進されることにより、それぞれの医療機関が最大限に力を発揮し、患者にとっても安心できる効率的な医療サービスが提供される社会が実現されることを期待しています。

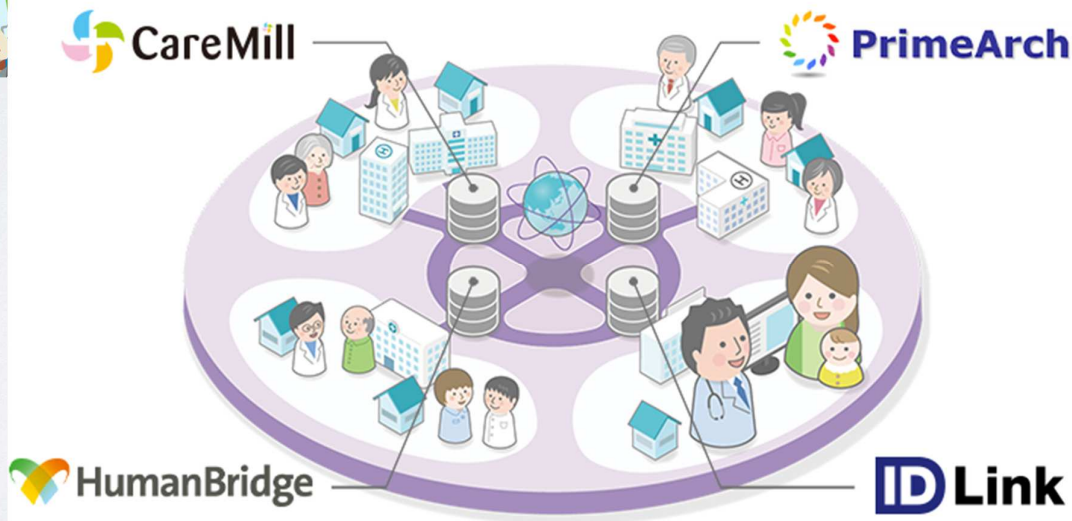
東京都知事

小池百合子



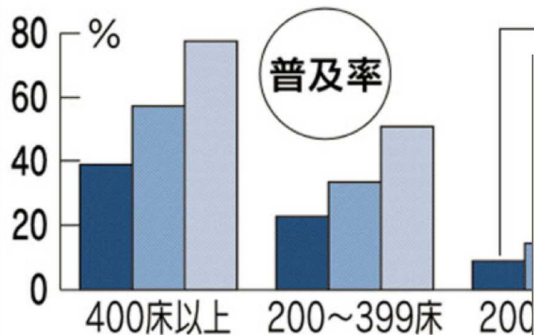


既存の連携システムを 標準規格（IHE）で結びます

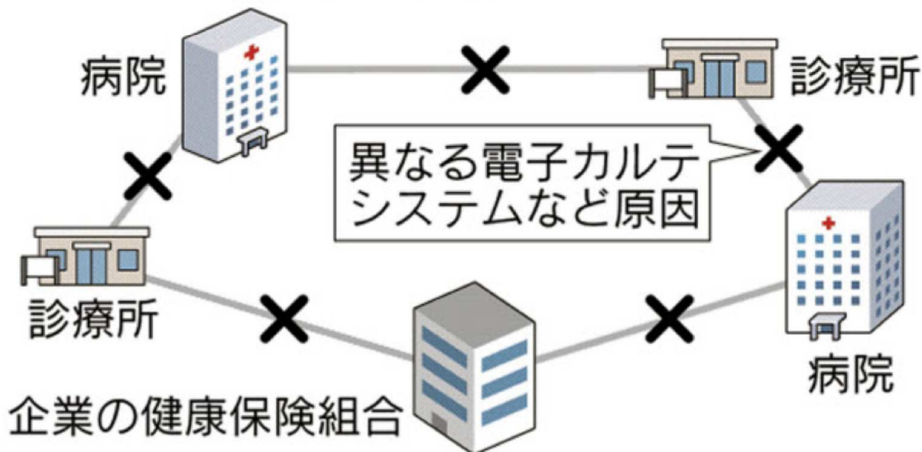


実際にはSS-MIX2を満たすだけでは不十分

電子カルテは大病院で普及が進んでいるが...

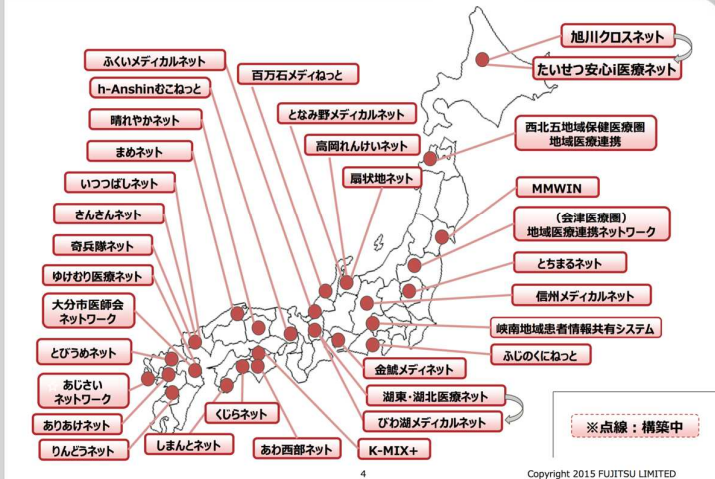


医療情報の共有は進んでいない



電子カルテ連携システムは富士通・NECの2社が ほぼ独占状態だったが相互接続は不可能と言われていた

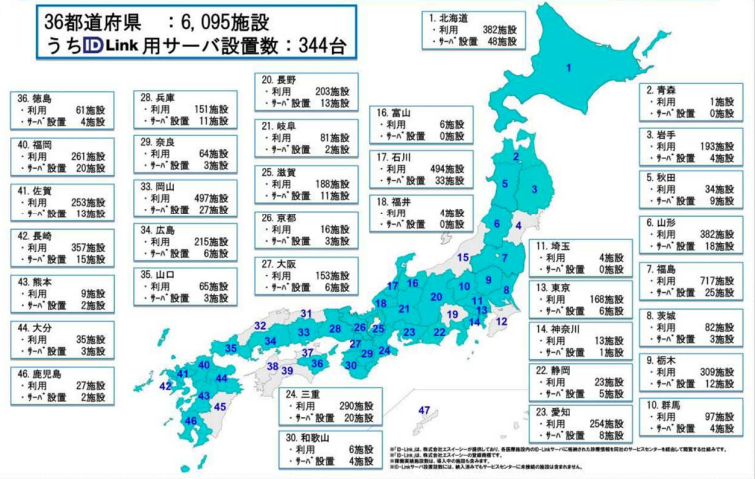
広域医療連携ネットワークの導入事例



ID-Linkサービス稼働実績 (2016. 11. 30現在)

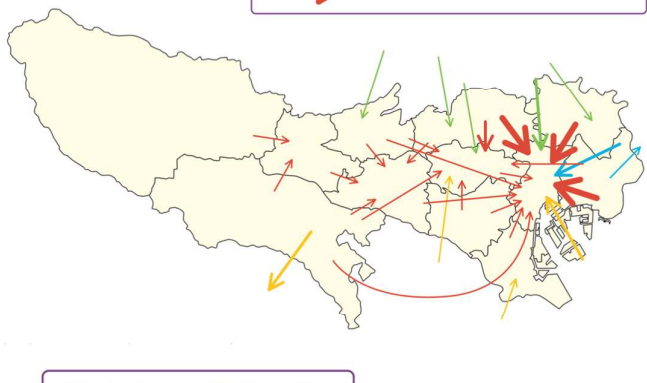
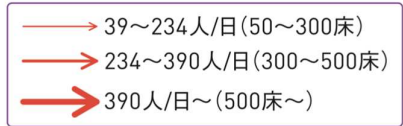


36都道府県 : 6,095施設
うちID-Link用サーバ設置数 : 344台

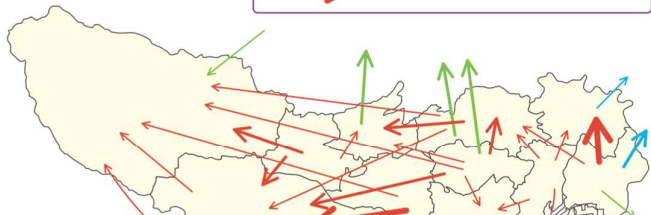
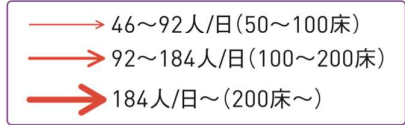


東京の患者さんの受療動向

急性期

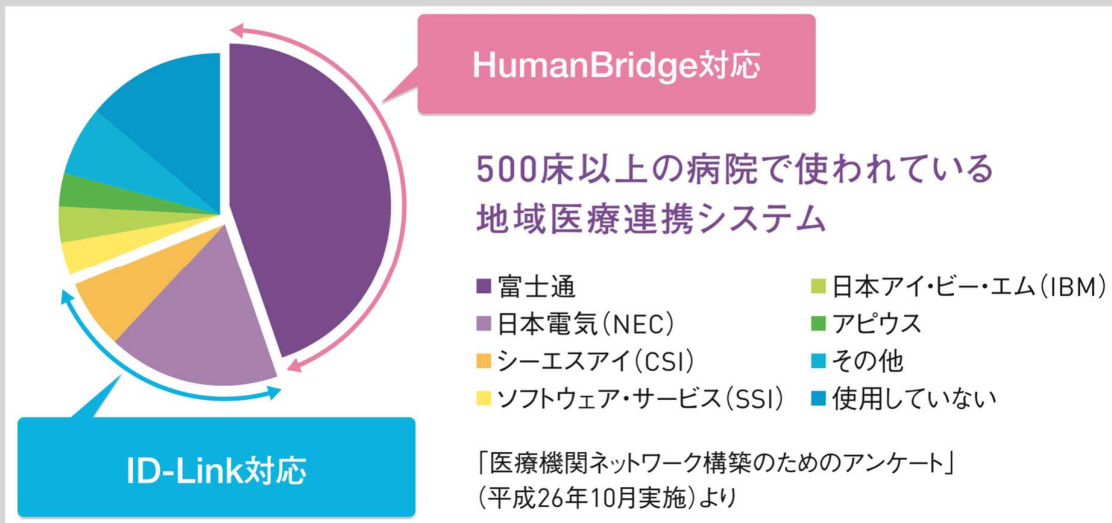


慢性期B



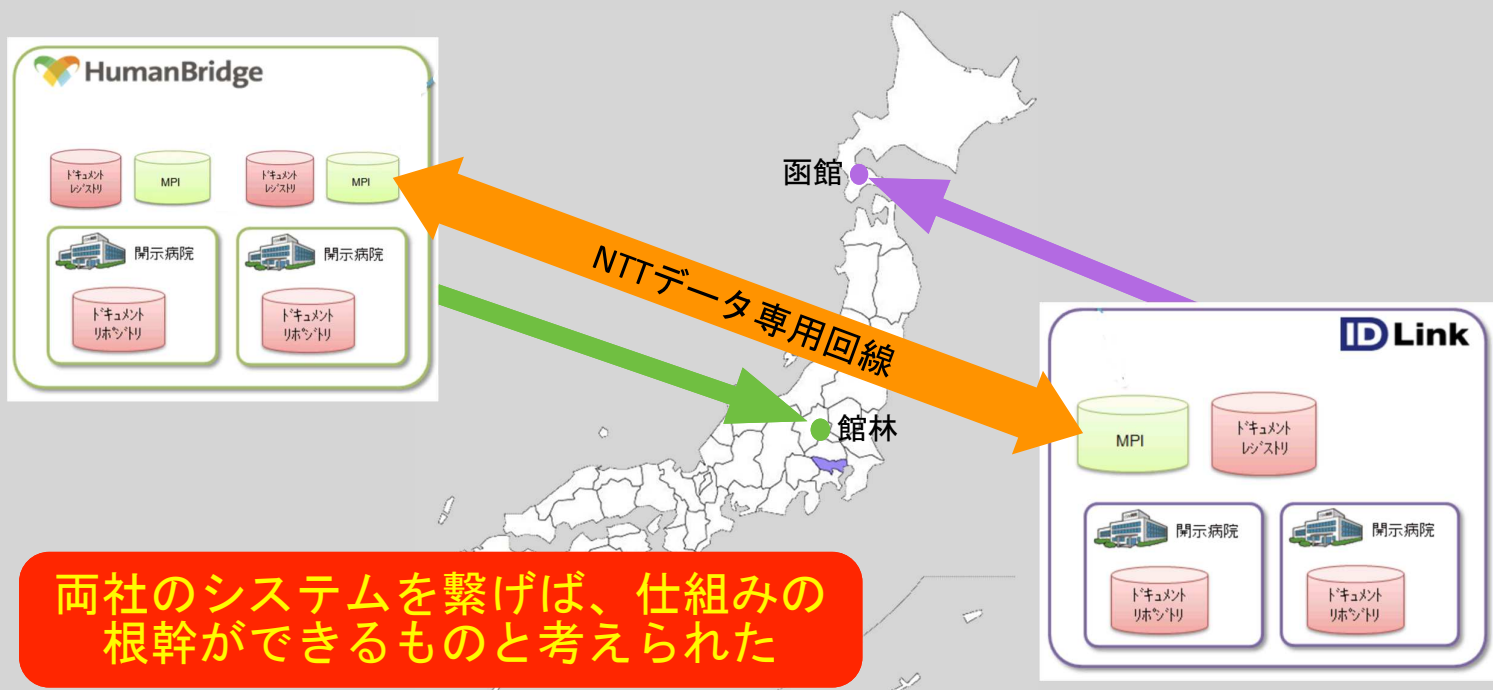
都内をひとつの電子的医療圏とするのがのぞましいのではないかと

連携システムは何が普及していたか



平成26年の調査（500床以上の病院対象）では連携システムとしてHumanBridge（富士通製）とID-Link（NEC・SEC製）が採用されていた

富士通・NECはすでに物理的に結合済みだった



データはIHEで流すことにより互換性を発揮できる

理想的なシステム連携を実現できていますか？



IHE 導入により期待される効果

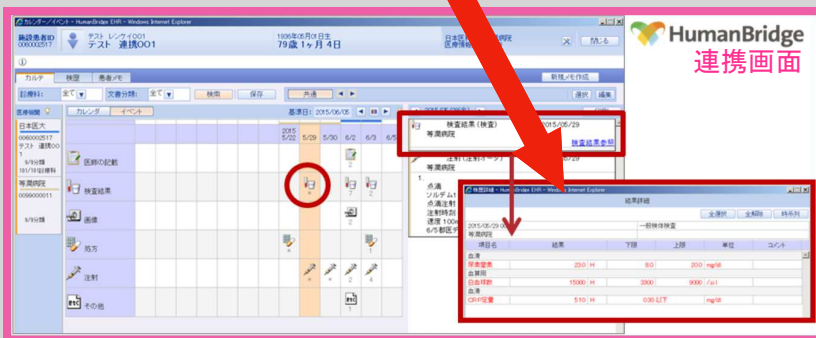
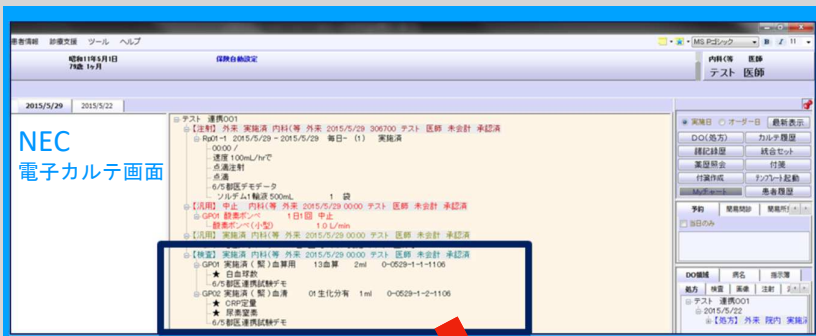
- マルチベンダ接続によりシステム構成の選択肢が増える。
- 理想的なワークフローが実現
- データ入力の二度手間がなくな
- 打ち合わせや仕様書作成が楽
- カスタマイズの手間と開発費
- カスタマイズによるバージョン

International Adoption of IHE



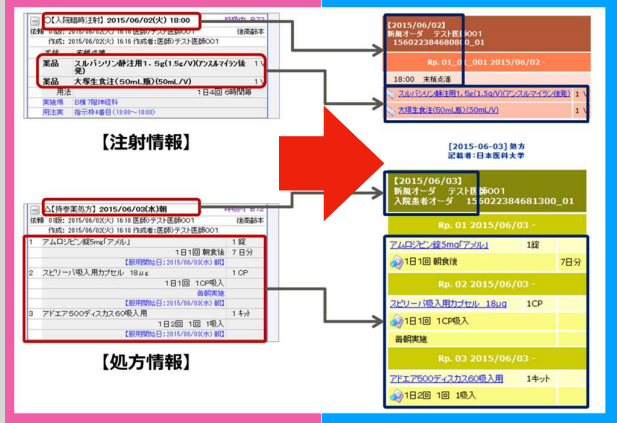
「IHE」は「HL7」の要素
 「HL7」は「FHIR」まで進化して標準化の目玉である

両社間を調整して接続試験に成功しました



富士通 電子カルテ画面

IDLink 連携画面



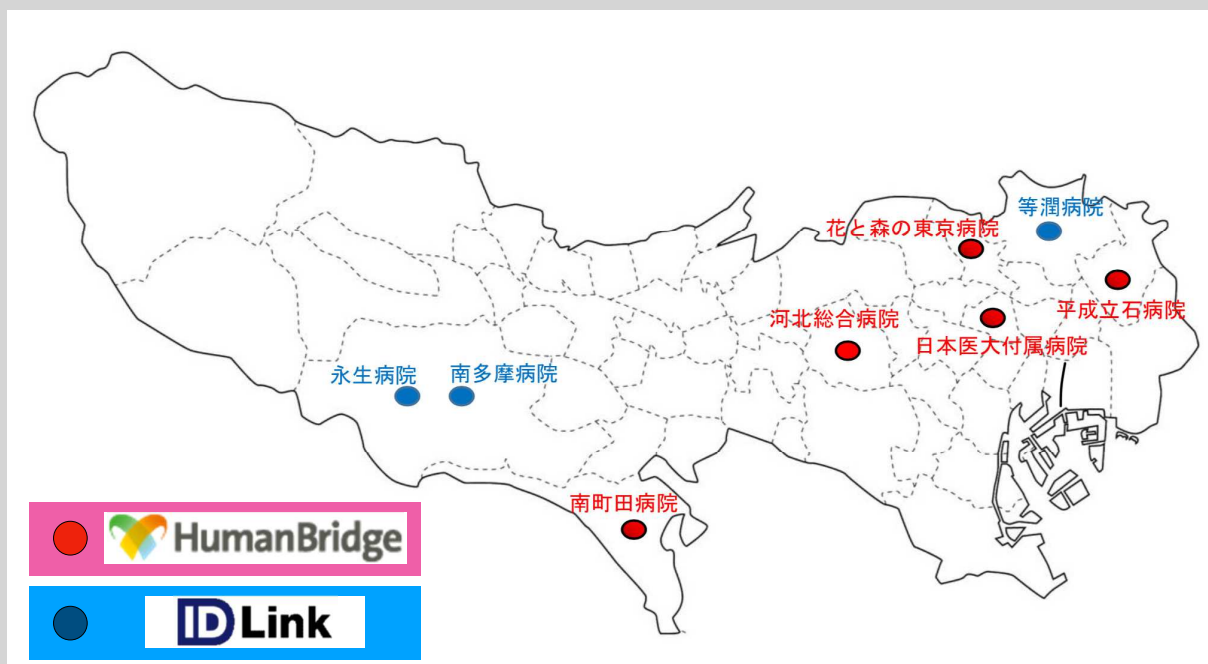
第1段階としてXCA連携を達成しました



STEP1 2015年2月

都内2病院間で
2ベンダーのXCAの実証

平成30年11月に8病院で本格運用開始

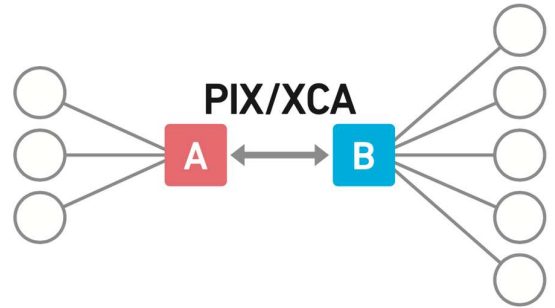


第2段階の仕組みはPIX/XCA連携となります



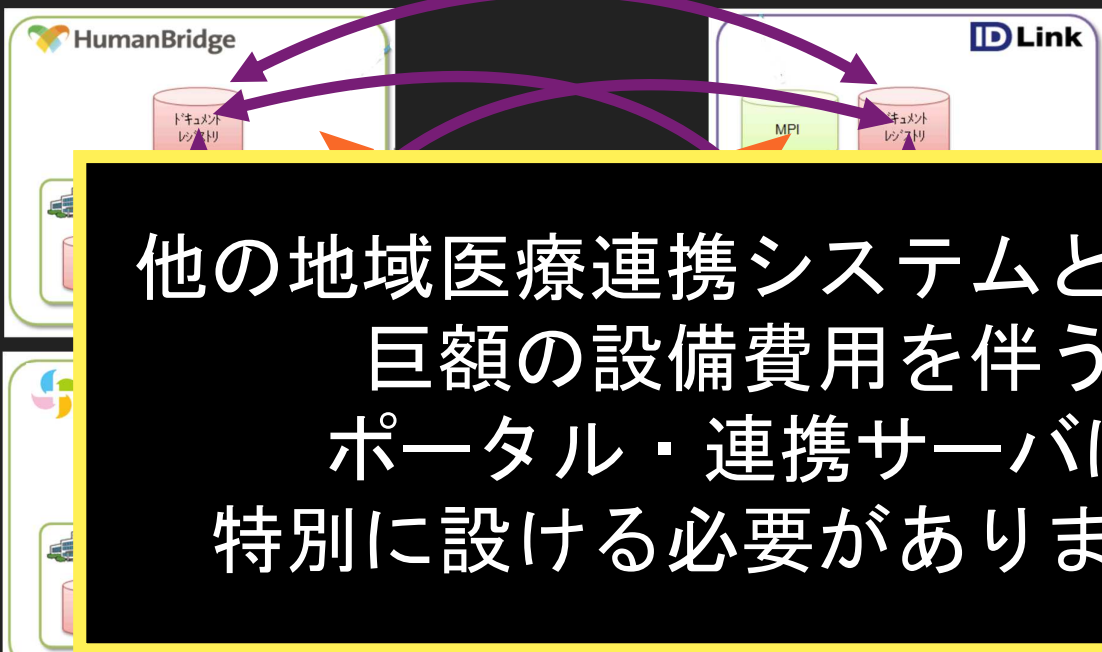
STEP1 2015年2月

都内2病院間で
2ベンダーのXCAの実証



STEP2 2018年11月

都内8病院間で
2ベンダーの地域医療
ネットワークで実運用開始



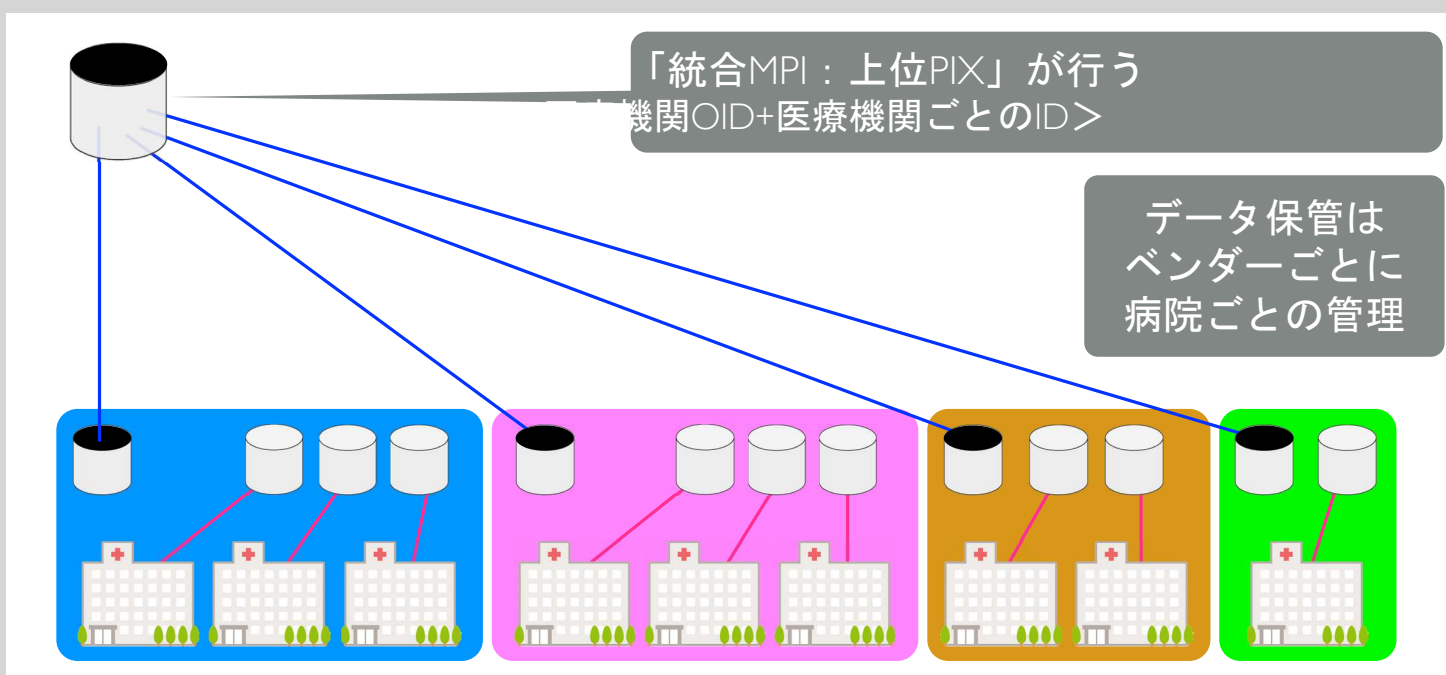
▶ 診療データの閲覧は当該する病院の連携サーバを直接ちで

他の地域医療連携システムと異なり
 巨額の設備費用を伴う
 ポータル・連携サーバは
 特別に設ける必要がありません

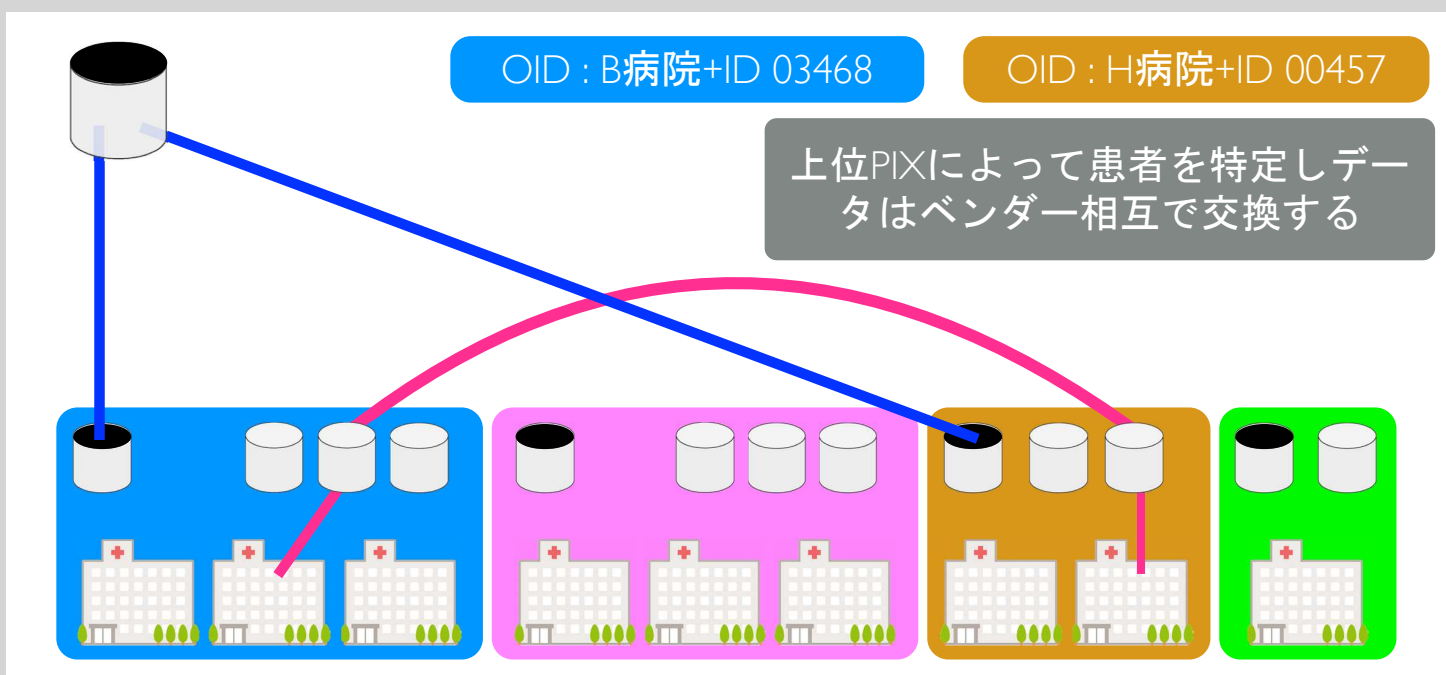
に過
けま

いよいよ4ベンダー体制で稼働します

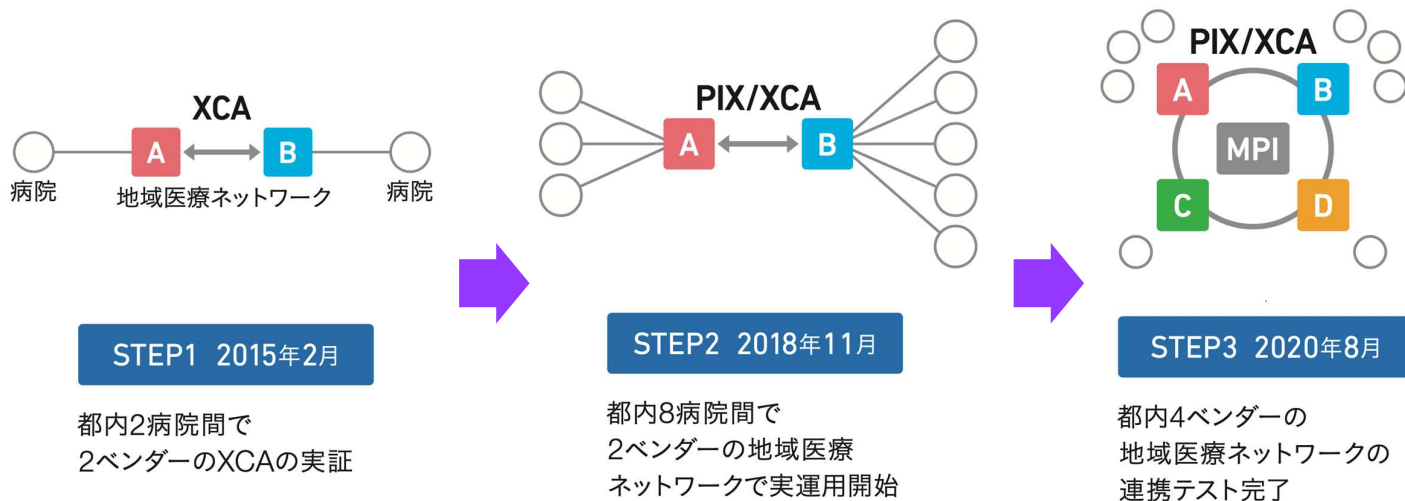
東京総合医療ネットワークの構成をまとめると



東京総合医療ネットワークの構成をまとめると

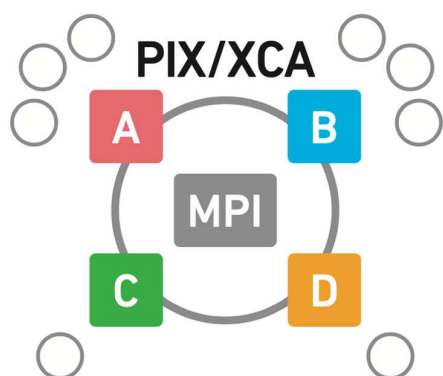


第3段階でここまで進化しました



この方法だと大がかりなサーバ設置は必要なかった
⇒これは将来への持続可能性を有していることになる

第3段階が完成したため、他地区での応用も可能に



- 所属する病院にOIDを割り当てる
- ドメインを地区ごとに変更する

ドメインを全国の病院で統一しさえすれば、あっさりと
「日本総合医療ネットワーク」が誕生します

接続を完了したのはこちらの20病院です

施設名	区市町村	連携システム
いずみ記念病院	足立区	Human Bridge
永生病院	八王子市	ID-Link
河北総合病院	杉並区	Care Mill
公立昭和病院	小平市	ID-Link
国分寺病院	国分寺市	Prime Arch
立川病院	立川市	Care Mill
同愛記念病院	墨田区	Human Bridge
東京医科歯科大学病院	文京区	Human Bridge
東京都済生会中央病院	港区	ID-Link
等潤病院	足立区	ID-Link
豊島病院	板橋区	ID-Link
日本医科大学多摩永山病院	多摩市	Human Bridge
日本医科大学付属病院	文京区	Human Bridge
花と森の東京病院	北区	Human Bridge
平成立石病院	葛飾区	Human Bridge
町田病院	町田市	Human Bridge
南多摩病院	八王子市	ID-Link
みなみ野病院	八王子市	ID-Link
南町田病院	町田市	Human Bridge

東京都の地域医療を支援する

東京総合医療ネットワーク

【お問い合わせ】

TEL:03-5217-0896

連携患者数 8,816 人

[2022年1月31日時点]

🏠 ホーム

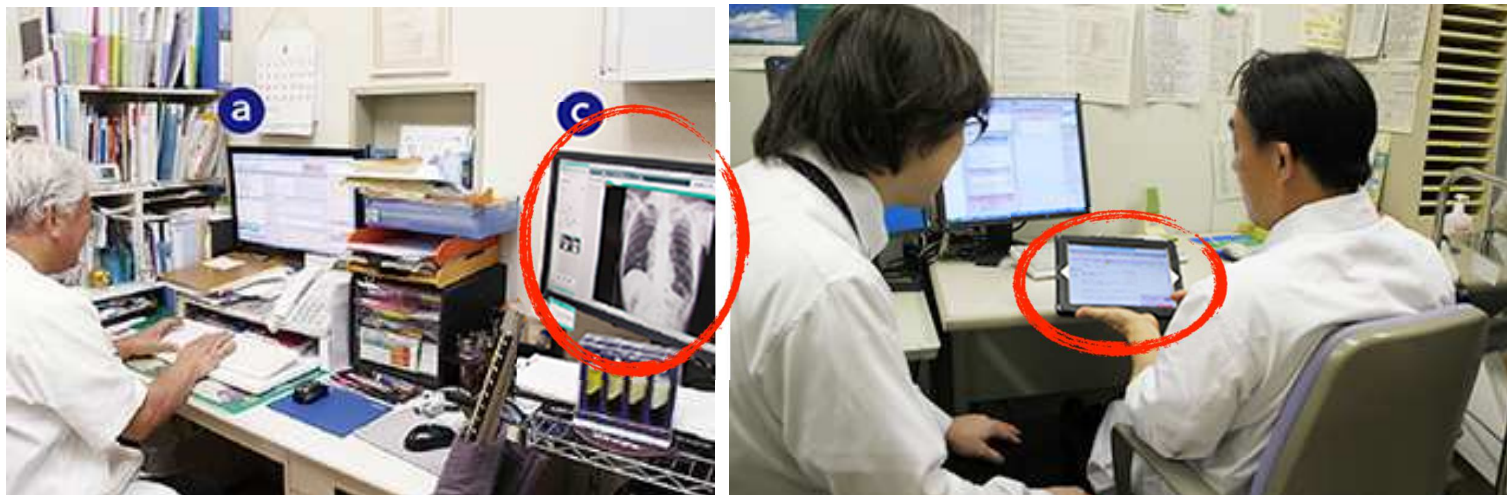
参加するには

お知らせ

よくあるご質問

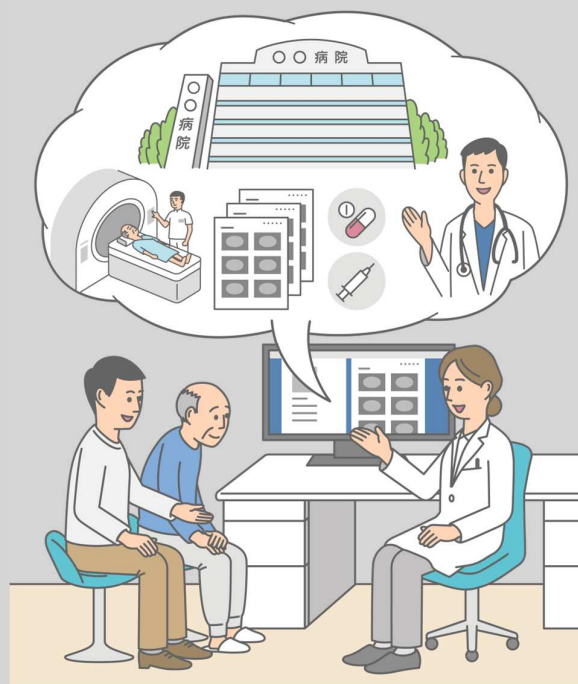


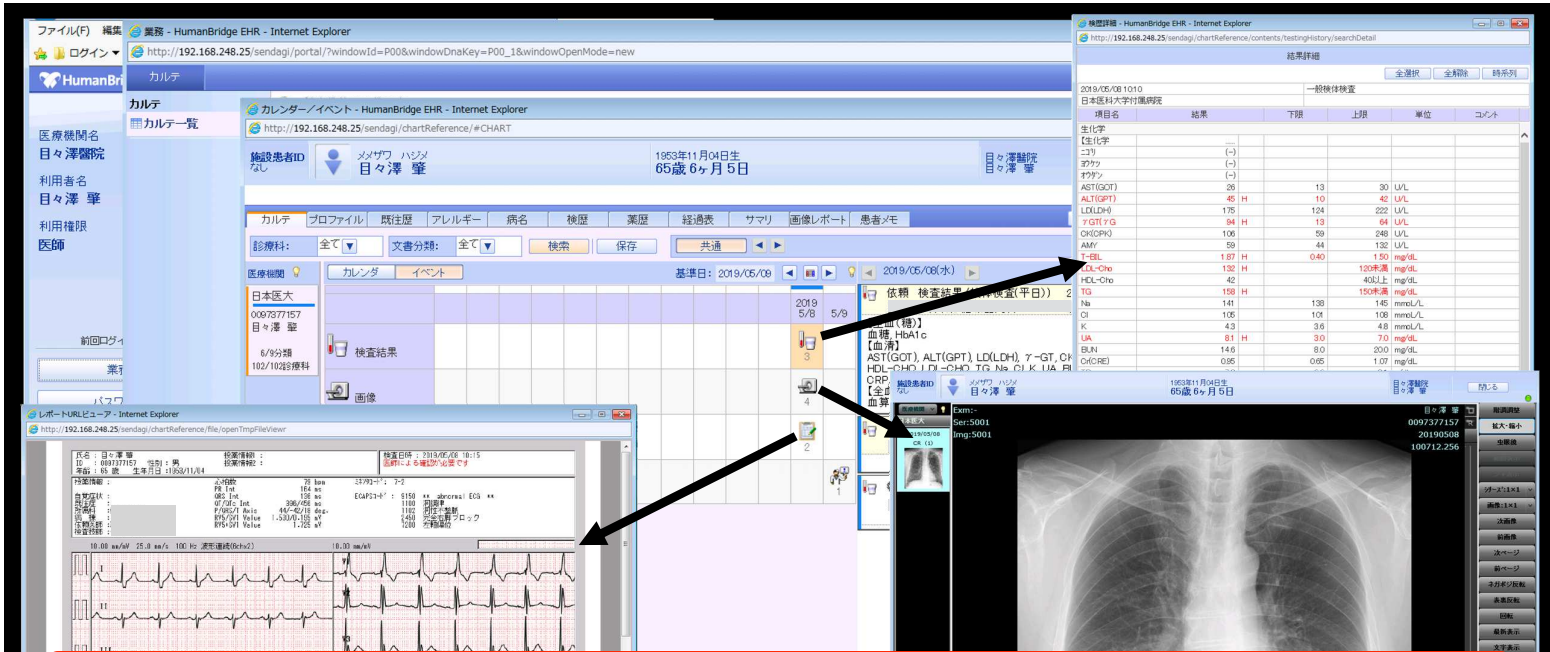
東京総合医療ネットワークの大切な特徴



- 病院では閲覧のためのPC・タブレットを別に用意する必要がない
- 電子カルテ端末の上で連携データへのアクセスができる

紹介した患者さんのデータを診療所から閲覧する





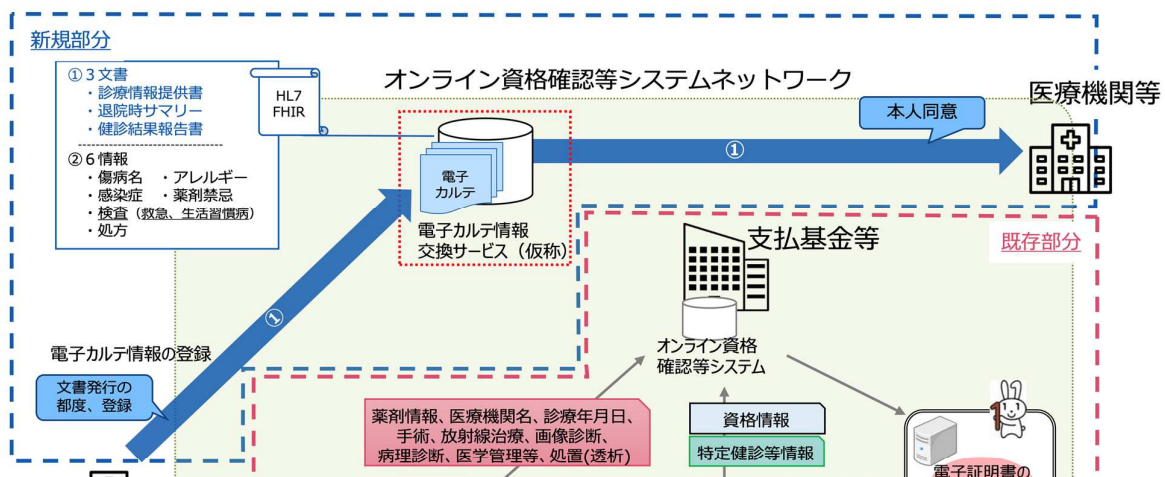
簡単ですが安全な接続で病院内の電子カルテと
ほぼ同じ画面を診療所などから閲覧できます

東京総合医療ネットワーク  公益社団法人 東京都医師会

クラウド型電子カルテベンダーの招聘による診療所からの双方向連携についても準備をしています

国が目指している 「全国医療情報プラットフォーム」 構想を見てみると...

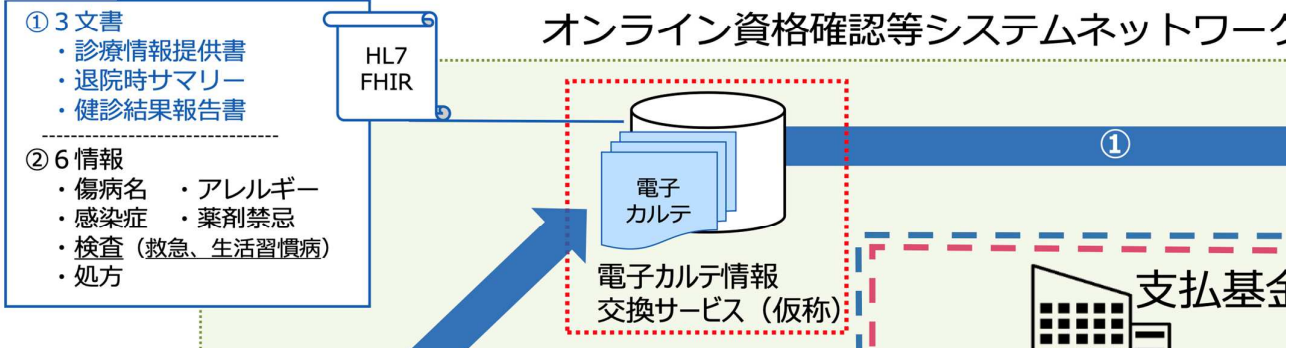
全国的に電子カルテ情報を医療機関等で閲覧可能とするため、以下の実装方法についてどのように考えるか。



「骨太」を受けた最新の資料では
使い勝手がなんだか面倒なことになりそうです

全国的に電子カルテ情報を医療機関等で閲覧可能とするため、以下の実装方法についてどの

新規部分



ここを取り出すと
「なんだ、それだけ？」とも言えそう

厚生労働省 第9回健康・医療IT活用推進検討会資料(5月19日)

自由民主党も「医療DX令和ビジョン2030」を発表

「医療DX令和ビジョン2030」の提言

令和4年5月17日
自由民主党政務調査会

(提言の概要)

- 日本の医療分野の情報のあり方を根本から解決するため、
 - (1) 「全国医療情報プラットフォーム」の創設
 - (2) 電子カルテ情報の標準化 (全医療機関への普及)
 - (3) 「診療報酬改定DX」
 の3つの取組を同時並行で進める。
- これにより、患者・国民、医療関係者、電子カルテ等のシステムベンダのそれぞれが、以下のメリットを享受できる。
 - 【患者・国民】**
 - ・ 診療の質の向上、重複検査・投薬の回避、自身の健康維持・増進への活用 (1次利用)
 - ・ 治療の最適化やAI医療等の新技術開発、創薬、新たな医療機器の開発等 (2次利用)
 - ・ システム費用の低減を通じた医療保険の制度運営にかかる国民負担の抑制
 - 【医療関係者】**
 - ・ 患者情報の共有や新技術開発による医療サービスの向上
 - ・ 電子カルテにかかる費用の低減
 - ・ 電子カルテ未導入機関への導入契機
 - 【システムベンダ】**
 - ・ 医療機関ごとのカスタマイズ対応が減り、SEの業務環境の改善・参入障壁の解消を図りつつ、社会的に意義ある医療サービスの高度化に向けて競争するという構造改革の実現
- 多くの関係者の納得と協力を得つつ、実現に向けた強固なガバナンス体制を構築した上で、行政のみならず、医療界、医学界、産業界が一丸となって不転換の決意で取り組む。

3 文書 6 情報の共有をめざす電子カルテ標準化
「3 文書」

① 診療情報提供書、② 退院時サマリー、③ 健診結果報告書

「6 情報」

① 傷病名、② アレルギー、③ 感染症、④ 薬剤禁忌、⑤ 検査 (救急・生活習慣病)、⑥ 処方

HL7FHIR準拠の標準クラウドベース電子カルテの提供

厚労省主導で未導入の一般診療所などへ

自由民主党も「医療DX令和ビジョン2030」を発表

「医療DX令和ビジョン2030」の提言

令和4年5月17日
自由民主党政務調査会

(提言の概要)

- 日本の医療分野の情報のあり方を根本から解決するため、
 - (1) 「全国医療情報プラットフォーム」の創設
 - (2) 電子カルテ情報の標準化(全医療機関への普及)
 - (3) 「診療報酬改定DX」
 の3つの取組を同時並行で進める。

これだけで終わってしまうともったいない

3文書6情報の共有をめざす電子カルテ標準化
「3文書」

①診療情報提供書、②退院時サマリー、③健診結果報告書

「6情報」

①傷病名、②アレルギー、③感染症、④薬剤禁忌、⑤検査(救急・生活習慣病)、⑥処方

HL7FHIR準拠の標準クラウドベース電子カルテの提供

厚労省主導で未導入の一般診療所などへ

自由民主党も「医療DX令和ビジョン2030」を発表

「医療DX令和ビジョン2030」の提言

令和4年5月17日
自由民主党政務調査会

(提言の概要)

- 日本の医療分野の情報のあり方を根本から解決するため、
 - (1) 「全国医療情報プラットフォーム」の創設
 - (2) 電子カルテ情報の標準化(全医療機関への普及)
 - (3) 「診療報酬改定DX」
 の3つの取組を同時並行で進める。

ぜひこちらをきちんと創ってほしい

3文書6情報の共有をめざす電子カルテ標準化
「3文書」

①診療情報提供書、②退院時サマリー、③健診結果報告書

「6情報」

①傷病名、②アレルギー、③感染症、④薬剤禁忌、⑤検査(救急・生活習慣病)、⑥処方

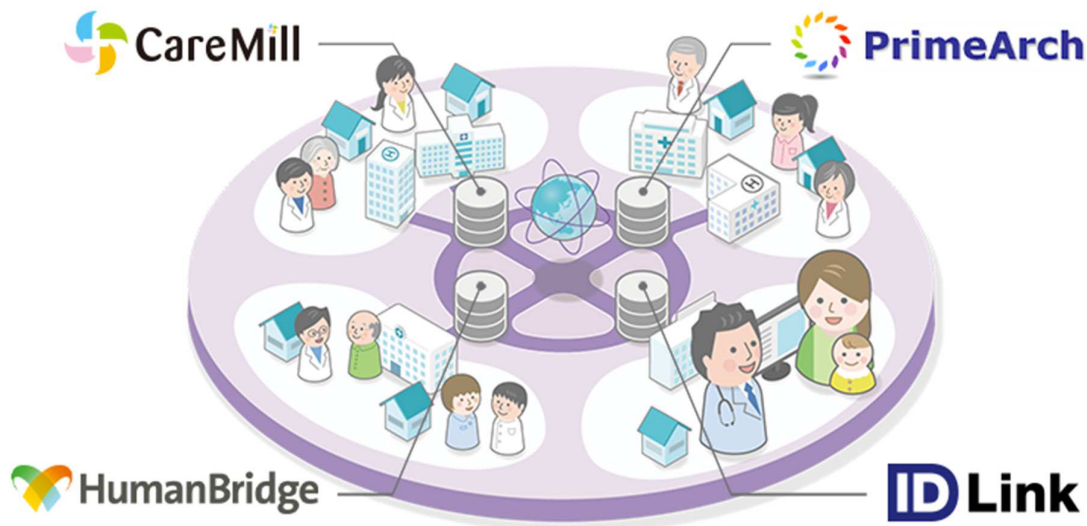
HL7FHIR準拠の標準クラウドベース電子カルテの提供

厚労省主導で未導入の一般診療所などへ

東京総合医療ネットワークを
いまはこのまま続けるべきではないか

整合性などを見極めながら
東京（日本？）総合医療ネットワークを
育ててゆこうと思います

東京総合医療ネットワークは既存のインフラを活用し
将来への持続性と確保しつつ、進化・拡張を続けます



ご静聴ありがとうございました